

令和6年度 第1回山形市スポーツ推進審議会 会議録

1 開催の日時及び場所

- (1) 日 時 令和6年9月26日(木) 午後2時30分から午後4時30分
- (2) 場 所 山形市役所11階 1101会議室

2 出席者

- (1) 委員(出席9名 欠席1名)
石井委員 鈴木委員 中井川委員 福田委員 逸見委員 星川委員 松田委員
横山委員 渡邊委員 小野委員(欠席)
- (2) 事務局(12名)
平吹文化スポーツ部長 早坂スポーツ課長 古内部活動地域移行連携室長
遠藤文化スポーツ施設整備室長 他(別添資料のとおり)

3 傍聴者

一般傍聴者 なし

4 審議経過

- (1) 委嘱状交付 各委員へ委嘱状を交付
- (2) 会長及び副会長の選任について
山形市スポーツ推進審議会条例第6条第2項の規定により、委員の互選により事務局一任で、会長に渡邊委員、副会長に逸見委員が選出された。

5 報告事項

- (1) 「アーバンスポーツ普及方針」の策定について
事務局より資料1を説明

議 長

アーバンスポーツ普及方針ということだが、まだ何か具体的によく見えてこない。山形市民により沢山のアーバンスポーツをやってもらいたいから、このような方向性で進めるということか。

また、他のスポーツと比べて、特にアーバンスポーツの普及を進めていくから、分けて策定するのか。

事務局

アーバンスポーツ普及方針(案)を5年度に作成するということで、各競技団体から意見を伺いながら調査を進めており、まだ完全に策定が済んだというわけではなく、今年度も引き続き意見を伺いながらより良いものを作り上げていく段階である。

やはり、若者の定住が1つキーワードになっており、若者が楽しめる場所、スポーツを提供していけると良いのではないかというのが、この取り組みの発端になっている。オリンピック種目ということで、非常に人気が上がって注目を集めているため、若者の地元定住のきっかけになると考えており、今後も推進していきたい。もちろん、これまで各スポーツへ注力している部分を減らすというわけではなくて、従来通り支援しながら、アーバンスポーツも進めていきたい。

議 長

山形市内に、アーバンスポーツ施設の整備を進める方向性という理解で良いのか。

事務局

競技者からすれば、地元にそのような施設があるというのが理想だが、現段階では、競技施設を整備するということまでは考えていない。

理由として、オリンピックを契機に急激に注目度が高まっている状況で、そのスピードが早い。これが定着できるのかということも注視していきたい。定着するとなれば、その時点が新たな施設の必要性を検討する時期と捉えている。

委員

山形では大会を開けるような場所がほとんどない。

目的は、底辺拡大や選手育成ということがあるし、まちづくりがあって、交流人口を増やす等、国際大会開催まで持っていくとか最終的には様々な方向性があると思うので、その辺が方針では見えてこない。目標が見えないので、ちょっとわかりにくいと思う。

事務局

目標をどこに持っていくかまでは現時点では至っていない。競技が定着していけるかということを見極めながら進めていきたい。

委員

ロスオリンピックからサスケのようなものが種目になるという話があり、何がオリンピック種目になるのかわからないが、今後もロスまでの間にまた違う新しい種目も出てくると思うので、慎重に審議した方が良い。

事務局

東京オリンピックあたりで変わってきたと感じているが、パリオリンピックで継続してあるものも、そうでないものもあるため、情報収集しながら検討していきたい。

委員

様々な種目があるが、既存施設でやれるのかやれないのか。まずは、場所を提供して、そこで様々なことやってみてはどうかということも1つかなと思う。まずは、既存施設の活用だと思うので、それをどういうふうに持っていくかだと思う。

事務局

活動場所が非常に大きな問題になると思う。例えばボルダリングは専用施設がないと活動ができない。また、スケートボードやBMXは、アスファルトである程度の場所・空間があればできると思うが、公園で活動すると苦情が来てしまう状況もあると聞いている。認知度を高める、印象を上向きにするというあたりが、非常にポイントになると思う。10月の市民スポーツフェスタのプログラムの中で、ボルダリングやスケートボード等、そのような取り組みを見ていただいて認知度を上げ、さらに公園の駐車場等を使用していけないかどうか、そこは施設と相談しながらの取り組みとなると思う。もちろん活動場所というのが一番難しいかと思うので、十分調べていきたい。

委員

昨年度のスポーツフェスタの中でもアーバンスポーツを開催させていただいた。今年の8月に県体育館でアーバンスポーツフェスタ、10月にはスポーツフェスタで実施するため非常に人気があると重々承知している。

そのような中で、6種目だけではなく様々な競技が新たに生れている。将来的に国民スポーツ大会の中で種目となる競技もあると思われるので、各種目の加盟団体が独立することが、大きな役割になってくるのではないかな。組織がしっかりしてくると自ずと印象が悪いとかそういったのも是正されてくると思う。

非常にファッション性があり、興味を持って始める場合もあるが、もしかするとそれと同じようにすぐ辞めてしまう可能性もある。その辺の見極めをする必要があるため、通常のスポーツとは別の枠で捉えていった方がいいのかなという気がする。

議長

スノーボード等の冬のスポーツはアーバンの種目ではないという捉え方か。

事務局

決してそういうわけではないが、まずはスケートボード、ボルダリングなどからと考えている。検討の中で幅広く考えていきたい。

(2) 山形市における部活動の地域移行・地域連携の取組みについて

事務局より資料2を説明

委員

子ども達サイドはある程度理解できるが、受け入れサイドの課題とかわからないところがあって、両方がうまくいかないと実現しないと感じるが、その辺はどうか。

事務局

確かにご指摘のとおり、受入れる側も子ども達のニーズに対応した活動とか、あるいは活動場所、指導者等の負担が課題となっており、関係団体等から様々な意見を聞きながら、今後話を進めていく。

委員

これはボランティアベースということか。

事務局

クラブチームやスポーツクラブなどは、指導者が報酬を得ながら実施しているが、スポーツ少年団や地域の活動については、ほぼボランティアの形で指導していただいている。国のモデル事業では、ボランティアではなくある一定の指導者への謝礼や報酬も前提にしながら取り組みを進めるよう示されている。

山形市のモデル事業では、指導者の謝礼なども委託費の中に含めながら、実証事業を進めているところである。

委員

資料2－4の山形市剣道連盟では、参加者が100名になったこともあり、県武道館やスポーツセンターではなく、第一中学校の体育館となっている。

100名を超え市内の中学生のほとんどが参加する状態であり、初心者を含めたコースが50名、強化の部分が50名で、講師謝礼は、参加料から講師謝礼、場所代を払っている。謝礼を払うとなるとある程度人数も集まらないと、謝礼が出ない部分がある。今後モデル事業を外れたときに、ある程度の人数がいないと中々ひとり立ちできないのかなという感じもする。

そのような中で会場の確保が、非常に難しい。誰か調整をする人がいないと、勝手に自分で探してくださいでは大変であると感じた。

その辺はまだ時間があるので、調整をする期間を設けていかないと、立ち上げたのは良いが活動場所がない、空いている時しか活動ができない形になってしまう可能性もある。是非今のうちから検討をお願いしたい。

どうしても部活動というと両極端で、「スポーツを楽しみたい」「競技力を向上したい」と両方があるかと思うが、クラブチームとして、山形市から県大会や東北大会、全国大会に出場したチームはあるか。

委員

今年は、団体種目でクラブチームが東北・全国大会に出場というのはなかったと思う。個人種目は水泳も含めるとあると捉えているが、ただ、全国各地の傾向では様々な傾向が見えてきており、九州・中国勢あたりではクラブチームで出ているところもあるし、途中話題になった拠点校部活動のタイプで出ているところもある。本当に様々な形態が出てきているなというのが今年の感想である。

委員

剣道では、大阪などは完全にクラブチームとして昨年の全中に出場した。そのチームは完全に強化という部分の一本でやっているが、選手の派遣費が出ないという状況だったと聞いている。その監督の先生の旅費も全く出ない。そのようなことが現状としてあ

ったようだ。

市にかけ合って何とか生徒の部分は出してもらったが、先生の分は結局出なかったという状況であるため、今後山形県大会、東北大会、その後の大会に出るときには派遣費などを市が持つのかどうか、改めて検討をしてほしい。今の状況の中で、市としての対応をどうするのか今のうちから検討をお願いしたい。

委員

2つほど確認をしたい。

今回の会議の資料について、校長会などで示して良いのかまず伺いたい。

やってみて感じるところは、年度が変わると中学というのは保護者も変わるため、毎年、年度初めに経緯を話していくところが必ず生じる。

特に保護者も子ども達も、一体どうなっていくのか情報は非常に欲しがっているのが現状であり、それを説明する校長などの立場の者に対しても、ある程度ははっきりと現状を示されるとありがたい。

可能であれば、この資料は校長会でも報告して良いことが確認できるとありがたいが、検討中である部分も率直に教えてもらおうと、それに合わせて、準備しながら情報を伝えていきたいと考えている。

状況報告もそうだが、実証事業2年目に入り、来年あたりが最終年度だろうなと思いつながり、実証している立場からすると、その後はどうするのかというのは今から話題になっている。

やはり大きいのは財源であるとか、あと指導者の負担の部分で期間を区切って取り組んでいるので、これであれば実現可能ではないかと皆さん感じる部分はあるが、これが年間通して継続していくとなった場合に、施設の部分でそれぞれが確保するという動きをしていくのであれば、そういったところについては懸念がある。

総合的なパッケージのような形で、山形市の中ではこのように組織的に、例えば休日使わなくなる学校施設はこのように活用していく、そういったところを今後検討してほしい。

事務局

本日の資料は、この審議会が公開となっているため、使用してもらって結構である。

事務局

今日の資料のうちアンケート調査、今年度の取り組みなどは、すでにホームページで公表している。

実証事業後の財源については、全国的な課題であり、全国の自治体と連携して国にも支援を要請しようという動きがある。県を含め関係機関と連携し情報収集しながら取り組んでいきたい。

山形市としての様々な施設の確保については、その施設を管理している関係部署や教育委員会と一緒に、この課題を共通認識としながら今後に向けた方向性を検討していきたい。

委員

もう1点、関連してだが市の施設を使用する場合に冷房が入っていない。今後、冷房を入れる予定はあるのか。

スポーツセンターにしても、今後活動が頻繁になると、第2体育館であるとか武道館なども冷房が全く入ってない。大切なところに完備されていない状況である。

市の予算から出して、部活動で使用する場合に、その辺のフォローもしっかりやってもらえるのか。

事務局

今、熱中症対策として、気候変動とともに大分重要なものになってきており、議論はこれからになるが、市の施設の方向性としては、冷房は命に関わるものになっているので、まだはっきりしたことは何も言えないが、公共の施設に関しては、今後の方向性としてはそういったものを検討していく状況にきているのだと思っている。

委 員

部活動の地域移行について、保護者は令和8年ぐらいには完全移行しているのではないかと考えを持っている方もいるのではないかと。

働き方改革は大賛成だが、経費の問題や夜の活動が多くなるという負担がある。その辺のバランスと完全クラブ化にして全国大会の活動を進めていくのか、その辺が今の保護者もあやふやな部分で進んでいるのではないかと。保護者への説明はどれぐらいまで進んでいる段階なのか。

事務局

保護者の方には、今年4月に各学校のPTA総会があり、山形市の現状や取り組み等と、基本的な方向性、今年度の進め方についてチラシを配布し説明している。

明日、市のPTA連合会の教育懇談会があり、そこに小中学校PTAの代表と、教育委員会、部活動地域移行連携室が参加し、再度、現状と国の考え方など、スライドなどを通して説明した後に、意見交換をさせていただく予定である。

委 員

学校での説明は今話があったようにPTA総会の時に、各学校で資料等を使って話をしている。

それぞれ学校ごとの違いはあると思うが、割と大きいウエイトに感じているのは、新入生の説明会が1月末から2月上旬ぐらいにかけて行われるが、その中で自分の学校はこのような方向で来年進んでいくという説明を各学校の校長はしていると思う。

議 長

私も1つだけお聞きしたい。最終的にこの令和13年には完全に地域クラブに移行する理解で良いか。

事務局

計画期間が令和13年3月31日ということであって、最終的な移行までの期間は決まっていない段階である。

議 長

資料を見て、すごく気になるのは受け皿の支援が全く見えてこない。行き場が決まらなないと子ども達は選択できないと思うので、受け皿、特に地域のクラブだが、早く受け皿ができて初めて移行だと思うので、移行する先がないとなかなか進まないかなと思うので、子ども達の話じゃなくて山形市のスポーツ、山形市民がスポーツをする場所、スポーツの振興を進める場所は地域のクラブで、そこを充実させる。

その中に中学生も移行してくというのが本筋で、単に部活を横にずらすという話じゃないのではないかとと思うので、先ほどの施設の取り合いも、学校の部活や中学生のクラブだけでなく、様々な団体が活動していてその人たちも含めての調整となったときに、これは単に学校という話ではなく、山形市のスポーツ振興ということになると思うので、是非受け皿の整備という支援をお願いしたい。

(3) 西部工業団地公園内スポーツ施設整備事業の進捗状況について

(4) 屋外スケート施設のあり方検討懇談会の検討結果について

事務局より資料3・資料4を説明

委 員

スケート施設について、大変な部分が多い中、検討してもらいありがたく思っている。

実際ここ2年ぐらいの温暖化により、スケートリンクの併用期間が、前倒しで閉場していることもあった。

本来であれば競技団体としては屋内施設が一番良いが、やはり建築費用もすごくかかるし、冷凍機などが新しくなれば、少しは改善されるのかなというふうに、期待している。

最初のアーバンスポーツの話もあったが、スケートはアーバンスポーツの中に入っていくのは難しいのかなと思うが、アーバンスポーツと手を組みながら、人が集まるような施設として、どちらにも競技人口や利用者が増えるような形ができればいいのかなと思う。

インドネシアのイオンモールの中にフィギュアスケートのリンクがあり、ショッピングをしながら、上の方からスケート場で遊んでいる人を見たり、ショートトラックの世界大会をやっていたりする。何かそういう人が集まる仕組みと一緒にしながらしていけば、実際には競技人口が減っている状況ではあるが、また盛り返してくることも可能かなと思う。

事務局

説明の補足として、屋外スケート施設のあり方検討懇談会の検討結果を踏まえ、今年度、基本構想策定に向けて検討を進めているところであり、そちらの方も付け加えさせていただきます。

委員からあったように、温暖化の影響はこれから考えなくてはならないと思う。昨年度は、去年の暖冬のため、施設を早く閉めている状況である。

今後、温暖化が進んでいくことを踏まえながら様々な検討していかなければいけないと思っている。

6 議事

(1) 山形市スポーツ推進計画2028の進捗状況について

事務局より資料5を説明

特に意見等なし

(閉 会)